

令和3年度 こどものみらい保育園 自己評価分析と今後の課題

1. 対象者

保育職員6名（内訳：正規職員4名、パート職員2名）

2. 方法

「教育・保育の計画性」「保育の在り方、3歳未満児への対応」「保育者としての資質や能力・良識・適性」「保護者への対応・守秘義務」「地域の自然や社会との関わり」「保育者の専門性」の6つの大きな評価項目より、当法人の理念や方針を考慮して計88個の評価項目を作成した。（別紙参照）

3. 評価・分析方法

「1 よくできている」「2 まあまあできている」「3 あまりできていない」「4 まったくできていない」の4段階で回答を求めた。また、集計した回答について基本統計処理を行い、その結果をもとに園内研修にて話し合い、今後の課題について話し合った。

※対象者が少ないため、分析結果はあくまで傾向とする。

4. 結果

I. 教育・保育の計画性（1：28%，2：69%，3：3%，4：0%）

97%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① コロナ禍もあり、異年齢交流活動の実施に迷ってしまうことがあった。異年齢交流の意義と利点を理解し、感染リスクと照らし合わせ臨機応変に対応していく。
- ② 子どもの主体性を育む方法について、勉強不足を感じる。一つのモデルとなる保育について模索し、再度検討していく。
- ③ 2歳児の子ども達に対して、次の目標提示が不十分であった。保育者自身がまず3歳児クラスへのビジョンをしっかり持った上で、子どもにも伝えていけるようにする。また、行田こども園への活動日を活かし、3歳児クラスとの交流機会をもらい、子どもが3歳児クラスへの期待感やワクワク感が持てるようにする。

II. 保育の在り方、3歳未満児への対応（1：41%，2：57%，3：2%，4：0%）

98%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 昨年度に引き続き、制止や禁止の言葉を言わないように心掛けていても、使ってしまう時があった。心の中でカウントするなど意識することを定着させる。子どもをせかす保育をしないよう、「計画的に」「段階的に」を意識していく。
- ② とっさに子どもの名前を呼び捨てにしてしまったことがあった。子どもの手本となる意識を持つとともに、職員間でも忌憚なく意見し合えるようにする。

III. 保育者としての資質や能力・良識・適性（1：44%，2：55%，3：1%，4：0%）

99%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 報告・連絡・相談について、不十分と感じた機会があった。困る前に相談、また素直に指導されたことを実行し、それを継続させていけるようにする。
- ② 仲間へのキャリアパス意識を高く持ち、園全体の保育の質の向上、個人として人間性の豊かさを目指す。
- ③ 個々がスキルアップに向けて努力を継続する。子どもの姿から臨機応変に対応できるよう、複案・バージ

ョンを増やしていく。保育理念を軸としつつ、細かい目標を定めて達成していく。

IV. 保護者への対応・守秘義務（1：57%，2：37%，3：6%，4：0%）

94%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 家庭の養育方針を把握するまで時間がかかった家庭があった。日々のコミュニケーションを通して保護者との信頼関係を構築し、各家庭の養育方針を理解した上で協力して子どもの育ちを支えていけるようにする。
- ② 実のある懇談ができるよう、一日保育士体験の実施時期・内容について更に検討を進める。
- ③ 昨年度に引き続き、保護者と情報交換した内容は、全員で共有できるように記録をしっかりとっていく。

V. 地域の自然や社会との関わり（1：38%，2：42%，3：18%，4：1%）

80%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 園内菜園が定着してきたが、教育的意義を最大限生かしているかは疑問である。次年度は、「食育」をテーマとし、関心を深く掘り下げていきたい。また、家庭の「食育」への関心の低下について、問題意識を持ち、発信していく。
- ② 昨年度初めて保健センターの巡回相談の場を設けた。今後、地域機関・家庭・園との3者で、子育てについてそれぞれが適切な役割分担の中で、連携できる足掛かりとして一步踏み出していきたい。

VI. 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度（1：33%，2：62%，3：5%，4：0%）

95%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 園舎の構造や保育室の位置について、もっと理解が必要だと感じるので、より良い活用方法を模索していく。
- ② 保育者間で共通認識を持ち、それぞれが自分の意見を出し合えるようにする。
- ③ 日々の保育やWEB研修・キャリアアップ研修を通して、学び続けていく。また、入園希望者や就活生が見学のため来園した際は、自園のアピールを行ってみることで、自園の魅力について深く考える機会を持つ。